

教養教育科目オンライン講義形態での NIE の取り組み

村田 祥子（群馬大学）

1 オンライン講義の実施

新型コロナウイルス感染症の影響により群馬大学では 2020 年度前期に全学規模でオンライン講義を採用，開始した．その後，学部の専門科目および実技，実習科目から徐々に対面講義へと移行した．教養教育科目は全学部学生を対象にしており各科目の受講生数，教室の配分等の理由により対面講義の再開が難しく，2020 年度前期から 2022 年度前期までの 5 期にわたり多くの科目でオンライン講義形態を継続した．

本報告では，教養教育科目（教養育成科目 社会科学科目群）の教育学の講義において，オンライン講義形態の中で新聞を教材として用いた試みを取り上げる．

2 講義展開

担当する教育学では，基本的な教育に関する事柄について学び，その上でそれぞれの立場から教育について考察する機会を提供することを目指してきた．対面講義形態実施時から，具体的に社会にふれるための情報源として新聞を用い，学生が議論を行う際にその主題を新聞記事から設定することを求めてきた．社会を知る一つ的手段として新聞を読む体験を重視し，オンライン講義形態に変更後も新聞を題材として用いることを選択した．

講義初回に，履修希望学生に対して講義期間の後半には全員が必ず新聞記事を題材とした話題提供を行うレポーターを担当することを伝えた．レポーターには日本で発行された日刊の一般紙の記事の中から（担当日から 1 年以内の記事に限定）記事を選択し，選択の理由，記事内容を説明した後，議論する主題を示し自身の考えを述べることを求めた．これに基づき，レポーターを中心に全体での議論を行った．各回の講義終了後，レポーターを担当した場合，発表内容，議論内容，議論後の考察をまとめ提出することを求めた．レポーター担当以外の参加者には，その日に取り上げられた話題の中から最も関心を持った主題を選択し，自身の意見をまとめ提出することを求めた．

レポーターによる議論形式実施期間半ばに，レポーターの役割，準備について話しあう機会を設定した．また，講義最終日にはレポーター体験を振り返る機会を持ち，アンケートを実施した．

3 まとめ

オンライン講義形態期間のレポーターが取り上げた記事内容および講義終了時に実施したアンケートから，オンライン講義形態での NIE の取り組みについて検討した．

選択された記事内容としては，この期間の特徴として新型コロナウイルス感染症が教育の場に与えた影響について扱ったものが認められた．新聞を読む習慣は減少傾向にあり，社会を知る手段の多様化が生じていることが推定された．オンライン講義形態で新聞を教材として用いるときのひとつの問題として，学生が選択した記事内容の共有が難しいことがあった．口頭のみでの説明では記事内容の理解に限界があった．また，学生のビデオ画面の制限により学生間の互いの反応がわかりにくく，活発な議論展開が難しいことがあった．